

# 入選

## 作文部門

小学校低学年の部

び生物のためにできる事

富士市立伝法小学校 三年

山下 優月

わたしは、生活の中で家でながしている下水の量が気になつたので、お母さんに聞いてみました。するとお母さんは、水道使用料金のりょうしゅうしようとわたしに見せてくれました。それには水道使用量と下水道使用量がどちらも五一<sup>3</sup>mでした。そこでわたしがぎもんに思つたのは、上水道と下水道の金がくにちがいがあり、下水道の金がくの方が高いことに気がつきました。

「たっぷり下水道じょうほうきよく」をさんこうに上水道とは富士山からの地下水が水中ポンプになされ、はい水池でジアエンソサンナトリウムでさつきんされて水道メーター通り、家でつかうことができるとお水と書いてありました。下水道については、家や工場などでつかつたよごれた水が、下水管を通りじょう化センターで、び生物の力をかりてきれいな水にし、川や海にながしているとしり、おびせいぶつにおれいを言いたいです。そこでききたないう水をきれいにする方が時間がかかる事がわからまました。

わたしにできる事はどんな事か考えました。それは家や、学校でのよごれ物をあらう前に、ぬのや紙でふきとる事をやつてみました。食事の後のおさらやはし、自分のよごれた手をふいてから、あらい物をしてみました。少ないせんざいとお水をいしきしてあらいました。また、えのぐのふでや習字のふでも、ぬのでふきとつてからビンの中であらいました。自分のふくについたゴミやざぶとんにおちた食べかすは、外ではらいおとしてから、せんたくするようにしました。よごれをおとしてからあらうようになるとせんざいやお水の量をへらせてよごれが早くおちました。またバケツにお水をためてあらうようにもしてみました。色々なアイディアでわたしは、よごれをとりのぞいたお水が下水道を通る事で、じょう化センターのび生物のそうじが少しでも楽になるように、これからもよごれをおとしてからあらい物をするようにします。